

震災と原発事故で大きな痛

が参加する。本格的な活動は

を協議し、福島ブランドの創

化や従事者減少などの課題に

手を被った本県農業の復興を

新年度からで、当面は被災地

設、共同プロジェクトの展開、

直面している。原発事故被災

目指す研究者らの組織が「復

の現状を発信するフォーラム

単位互換制度の実現、復興農

地である福島はマイナス材料

興農学会」という名称で動き

の開催、小中学校など教育現

学会の立ち上げなどが提案さ

から少しでも光明が見いださ

だす。農業は地域の暮らしの

場への出前講座、被災地ツア

るが、間口は広く取るべき

なるはずだ。人工知能(AI)

基盤だ。原子力災害という特

一、大学間の共同研究などの

活動を想定している。

だ。福島に関心を持つ多くの

殊要因で基盤が損なわれた本

による新事業創出が期待さ

研究者、専門家をさまざま

取り込むことで日本の農業の

県には多くの専門家が訪れ、

六機関は「復興知」の共有

機関から呼び込んでほしい。

後はおいしくて安全な食べ物

再生に向けた知見を寄せてく

れた。それが知のネットワーク

として組織化されれば、さ

らに大きな力になる。災害や

過疎などに伴う現代農業の課

一、福島イノベーション・コ

各地から多くの参加者を集め

るだけで復興の拠点としての

題は全国にある。本県の経験

一、復興知』実装社会シンポ

農業だけでなくさまざまな

元で考えているより世界から

から生み出された対策が、日

本十二月、事業の一環として

分野の知を受け入れること

つながらる研究を新しい年に期

多分野の知の結集を

報告した。

乗効果が生まれるはずだ。

待する。(佐久間 順)

この機会に今後の事業展開

日本の農業は国際競争の激

化や従事者減少などの課題に